

福祉サービスと子離れ・親離れ

—宝塚市肢体不自由児者父母の会アンケート調査報告書—



2010年9月

<ごあいさつ>

今年1月、父母の会会員を対象に、親も子も地域で安定した生活を実現するためには何が必要かを知るべくアンケート調査を実施致しました。

アンケートの作成においては、現在の生活で困っていることや、これからの生活に関する願いについての率直なご意見を頂くとともに、日々の生活に追われ、先の事など考える余裕のない方に少しでも考えるきっかけになって欲しい、また日頃より将来を考えている方には他の会員の考えも参考にして欲しいという願いも込めました。この報告書が今後の福祉向上の一助になれば幸いです。

お忙しい中、時間を割いてご協力頂いた会員の皆様、どうもありがとうございました。

最後にこの調査を実施するにあたり、多大なご協力をいただきました関西学院大学人間福祉学部 杉野昭博教授および研究室の皆様にご心よりお礼申し上げます。

2010年9月3日

宝塚市肢体不自由児者父母の会
会長 成田直美

<目次>

調査の概要	2
調査結果	4
・アンケートの記入者	4
・対象となる障害児者の性別	4
・年齢	5
・障害者手帳	6
・障害区分認定	7
・コミュニケーション	8
・医療的ケア	10
・生活の場所	14
・福祉サービス	16
・今後の生活	23
・記入者自身について	31
・親離れ・子離れ	33
・普段の生活	35
・このアンケートについて	36
資料（アンケート用紙）	38

<調査の概要>

1. 調査の目的

宝塚市肢体不自由児者父母の会の会員の間には小規模地域型施設に対するニーズがどの程度あるのか調査してほしいという依頼を会から受けた。会の役員や、宝塚市社会福祉協議会などの関係者からのヒアリングをした結果、小規模地域型施設だけでなく、福祉サービス全般について会員の間でもさまざまな要望や意見があることを知った。また、親子の生活の将来像をどのように描いているのかということが、サービスについての要望と深く関係していると考えた。したがって、親を対象として、小規模地域型施設を含む福祉サービス全般についての利用実態および要望などを調べると同時に、親離れ、子離れについて、親の意識をいくつかの角度から調べようとした。

また、親離れ、子離れについては、たんに、親の意識を調べるだけではなく、アンケートに答えることによって、親自身が改めてこの問題について考える機会としたり、調査結果を見て他の会員たちの意見を知ることによって自分たちの生活設計の参考にもなることを意図した。いわば、調査を通じて、調査参加者自身が自分の考えを整理したり、新しい考えを知ることにより、少しでも前向きな生活設計を考えるきっかけとなるようなアクション・リサーチ（調査することによって現実に少しでも良い方向への変化が生まれることを期待して設計された調査）をめざした。

2. アンケート調査の経緯と調査方法

まず、関西学院大学人間福祉学部杉野研究室は、宝塚市肢体不自由児者父母の会で行われていた小規模地域型施設についての検討会に参加し、父母の会の会員や宝塚市社会福祉協議会などの関係者からのヒアリングを行った。その結果、会員の小規模地域型施設に対する期待や、将来的な親子の生活像が、子どもの年代によって異なっているように感じた。このため、父母の会のなかで、子どもの年齢が異なる2グループについて、さらにヒアリングをおこなった。この2グループは、子どもが18歳以上で安倉障害者支援センターを利用している会員のグループと、子どもが6歳以上18歳未満で宝塚市立養護学校に通学している会員のグループである。これらのヒアリングをふまえて、今回のアンケート調査を設計した。

具体的なアンケート項目を作成する上では、小規模地域型施設に対する期待や福祉サービスのニーズを把握するために、2つの調査報告書を参考にした。1つ目は、特定非営利活動法人わーかーびいーの「平成20年度 肢体不自由者の地域での小規模な住まいのあり方と介護体制についての調査研究」報告書であり、2つ目は、壱岐地域リハビリテーション連絡協議会の「知的障害児・者の生活状況等に関する調査報告書」である。しかしながら、これらの調査報告書は、現状の生活様式や行動様式を把握する

ことが中心課題として設定されているため、親が子の自立に対してどのように考えているのか、自立のために必要なことは何か、小規模地域型施設はどのような場合に利用をしたいと考えているのかなど、今後の親子の生活についての意識や認識を問う項目が不足していた。そのため、ヒアリングから得られた意見を参考にして、小規模地域型施設に対する期待や、親離れ・子離れに関する意識などをアンケート項目として追加した。

さらに、今回のアンケート調査は、親自身が質問に答えることによって、今後の親子の生活においてどのようなことが必要なのかを考えてもらう機会として利用してもらい意図をもって作成した。そのため、アンケート項目に親の関心が向きやすく、答えやすいものとなるように心がけた。アンケートの作成にあたっては、父母の会で行われていた小規模地域型施設の検討会で、各質問項目および選択肢などについて議論を重ねたうえで決定した。

アンケート項目は、対象となる障害児者の属性（年齢、性別、障害者手帳の種類および等級、障害程度区分）、障害児者のコミュニケーション力、主な生活の場と1日の過ごし方（平日と休日）、医療的ケアの必要度、利用している福祉サービス、福祉サービス利用上の困難点、ホームヘルパーの利用状況、今後の小規模地域型施設に期待すること、親離れ・子離れに関する意識、親族内（親）からの支援認識など、36項目で構成し、集計した。

3. アンケート用紙の配布数と回収数

「宝塚市における身体障害児者の福祉サービスに関する調査」では、平成22年1月末に、宝塚市肢体不自由児者父母の会に所属する会員のうち、身体障害児者の年齢が就学年齢以降である方89世帯を対象に、会を通じてアンケート用紙を配布し、回答後、切手貼付済みの所定の封筒を利用して無記名で杉野研究室あてに郵送してもらった。回収数は68件であり、回収率は76.4%であった。

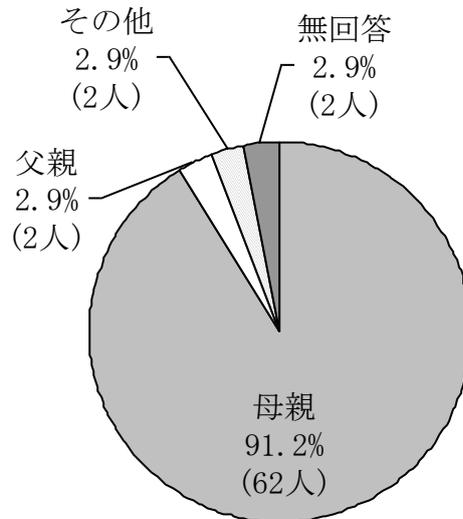
<調査結果>

問1 アンケートの記入者

アンケートに答えてくれたのは、ほとんどがお母さん。

「宝塚市における身体障害児者の福祉サービスに関する調査」の記入者は、母親が91.2%、父親が2.9%であった。

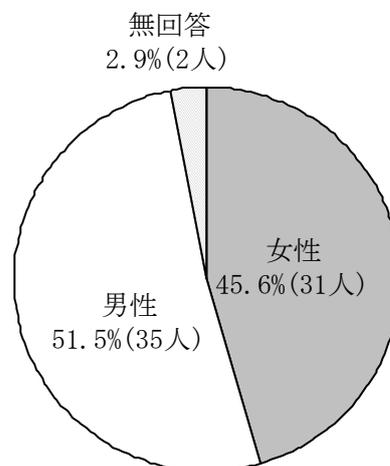
【図表1 アンケートの記入者：総数:68人】



問2 対象となる障害児者の性別

性別は、「女性」が45.6%、「男性」は51.5%であった。

【図表2 障害のある子どもの性別：総数 68人】



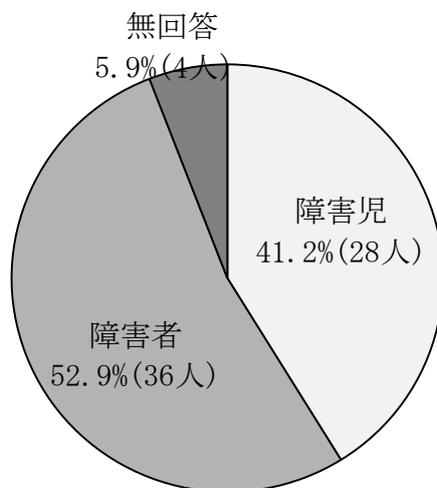
問3 年齢

年齢は記述があった64件から平均年齢を算出すると、21.09歳（標準偏差11.031）であり、最少年齢は7歳、最高年齢が45歳であった。

**【図表3-1 障害のある子どもの年齢層：総数68人
（回答者64人、無回答4人）】**

	人数（人）	割合（%）
7歳以上15歳未満	22	34.4
15歳以上20歳未満	11	17.2
20歳以上25歳未満	7	10.9
25歳以上30歳未満	7	10.9
30歳以上35歳未満	8	12.5
35歳以上40歳未満	5	7.8
40歳以上45歳未満	3	4.7
45歳以上	1	1.6
合計	64	100.0

【図表3-2 障害児と障害者の割合：総数68人】



*障害児は18歳未満の者、障害者は18歳以上の者。

問 4-1 障害者手帳

ほぼ全員が手帳保持。

障害者手帳は無回答が 2.9%あるが、それ以外の回答はすべて「もっている」97.1%であった。

【図表 4-1 障害者手帳所有の有無：総数 68 人】

	人数 (人)	割合 (%)
もっている	66	97.1
もっていない	0	0.0
無回答	2	2.9
合計	68	100.0

問 4-2 障害者手帳の種別

手帳保持者の 9 割近くは身体障害者手帳 1 級。

障害者手帳をもっていると回答した 66 人に対して障害者手帳の種別および等級をたずねた。その結果、もっている障害者手帳は、「身体障害者手帳 (1 級)」が 89.4%で最も多く、次いで「療育手帳 (A)」が 56.1%、「身体障害者手帳 (2 級)」が 7.6%、「療育手帳 (B1)」が 4.5%、「療育手帳 (B2)」が 3.0%、「身体障害者手帳 (3 級)」が 1.5%、「身体障害者手帳 (4 級)」が 1.5%であった。

【図表 4-2 もっている障害者手帳の種別：

回答者数:66 人,複数回答】

障害者手帳の種類 (複数回答)	人数 (人)	割合 (%)
身体障害者手帳 (1 級)	59	89.4
身体障害者手帳 (2 級)	5	7.6
身体障害者手帳 (3 級)	1	1.5
身体障害者手帳 (4 級)	1	1.5
身体障害者手帳 (5 級)	0	0.0
身体障害者手帳 (6 級)	0	0.0
療育手帳 (A)	37	56.1
療育手帳 (B1)	3	4.5
療育手帳 (B2)	2	3.0
精神保健福祉手帳 (1 級)	0	0.0
精神保健福祉手帳 (2 級)	0	0.0
精神保健福祉手帳 (3 級)	0	0.0

* 障害が重複していても、療育手帳・精神保健福祉手帳は、取得していない人たちも多い。身体障害者手帳を保有していれば福祉サービスは利用可能。

問 5-1 障害程度区分認定

障害程度区分認定は、「受けている」は47.1%、「受けていない」が35.3%であった。

【図表 5-1 障害程度区分認定の有無：総数 68 人】

	人数（人）	割合（%）
受けている	32	47.1
受けていない	24	35.3
無回答	12	17.6
合計	68	100.0

*宝塚市では、児童サービスの利用に、障害程度区分認定は必要ないので、18歳未満の子どもは障害程度区分認定を受けていない。

問 5-2 障害程度区分認定の区分

障害程度区分認定を受けている32人に対して、障害程度区分認定の区分をたずねた。その結果、障害程度区分認定では、「障害程度区分6」が75.0%でもっとも多く、次いで「障害程度区分1」が12.5%、「障害程度区分5」と「障害程度区分3」が各々3.1%であった。

【図表 5-2 認定されている障害程度区分：該当者数 32 人】

	人数（人）	割合（%）
障害程度区分1	4	12.5
障害程度区分2	0	0.0
障害程度区分3	1	3.1
障害程度区分4	0	0.0
障害程度区分5	1	3.1
障害程度区分6	24	75.0
無回答	2	6.3
合計	32	100.0

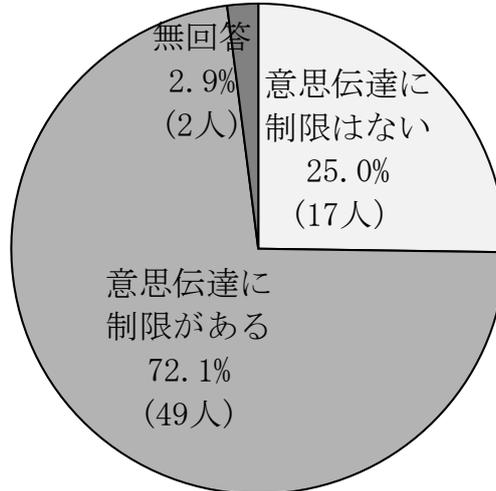
*障害程度区分1の回答は、障害者手帳の等級と混同した可能性がある。

問 6-1 コミュニケーション

4人に3人が、意思伝達に制限がある。

どのような相手に対しても、自分の意思を伝えることができるかについては、「できない」が72.1%、「できる」が25.0%であった。

【図表 6 他者への意思伝達可能性：総数 68 人】



問 6-2 コミュニケーション

「意思伝達に制限がある」と回答した49人に対して、自分の意思を伝えることができる相手は誰かについてたずねると、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・母。
- ・家族。
- ・親しいヘルパーさん。
- ・学校の先生。
- ・家族・支援センターの職員の方、訓練士さん等。
- ・ある程度慣れている信頼関係のある人。
- ・全く伝えることは出来ない。
- ・よく一緒にいる人（デイサービスに通所している仲間・今までに色々お付き合いしてきた方々）なら意思を伝えられる。
- ・初対面ではなく、何度か会ってかかわった人なら、顔の表情等で第三者にも何となく理解してもらえそうです。
- ・親や長年接触のある人にはわずかに伝えようと目や手ぶりで。
- ・自分の事を分かろうとしてくれる人。

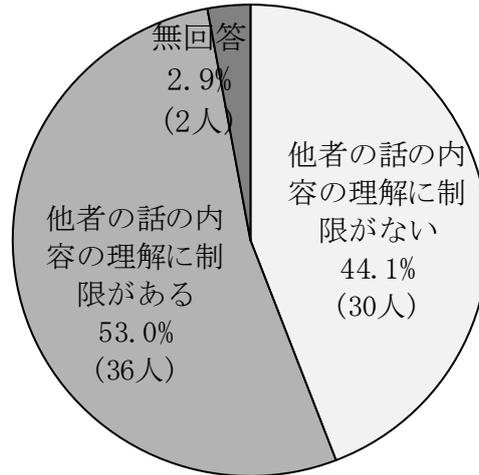
問 7-1 コミュニケーション

誰の話でも理解できる人が半分いる。

残りの半分の人も相手によっては理解できることもある。

どのような相手でも、話していることを理解できるかについては、「できない」が 53.0%、「できる」が 44.1%であった。

【図表 7 他者が話していることの理解可能性：総数 68 人】



問 7-2 コミュニケーション

「他者の話の内容の理解に制限がある」と回答した 36 人に対して、誰が話すことなら理解できるかたずねると、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・両親。
- ・家族。
- ・学校の先生。
- ・慣れた気の合うヘルパーさん。
- ・ある程度慣れている信頼関係のある人。
- ・いつも一緒にいる人なら何となく理解していると思います。
- ・たぶん誰もできない。
- ・わかりやすい言葉で話してくれる人。

問 8-1 医療的ケア

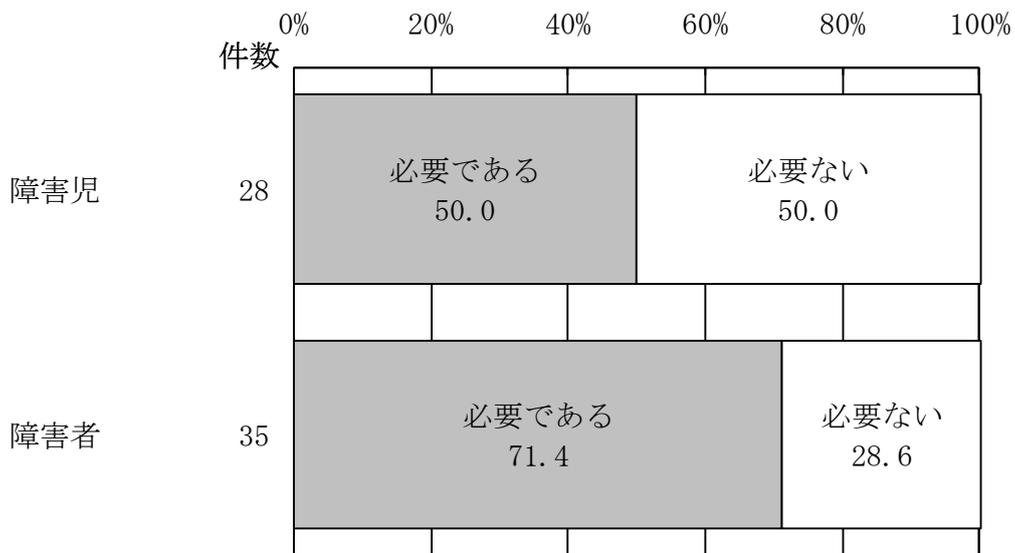
6割の人が医療的ケアが必要。

医療的ケアの必要性については、「ある」が61.8%、「ない」は36.8%であった。

【図表 8-1 医療的ケアの必要性の有無：総数 68 人】

	人数 (人)	割合 (%)
ある	42	61.8
ない	25	36.8
無回答	1	1.4
合計	68	100.0

【図表 8-2 障害児者別で見た医療的ケアの必要性の有無：該当者数 63 人】



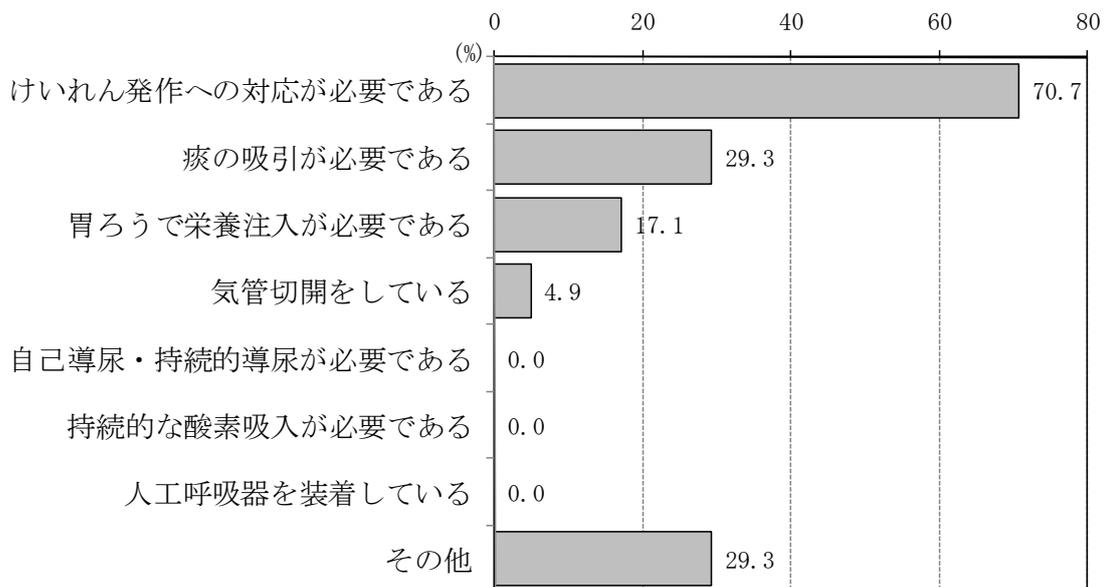
問 8-2 医療的ケア

必要な医療的ケアは、けいれん、吸引、胃ろう、気管切開など。

医療的ケアを必要と回答した 42 人に対してケアの内容をたずねた。その結果、必要とする医療的ケアでは「けいれん発作を起こすことがあり対応が必要である」が 70.7%でもっとも多く、次いで「痰の吸引が必要である」が 29.3%、「胃ろうで栄養注入が必要である」が 17.1%、「気管切開をしている」が 4.9%、「その他」が 29.3%であった。

【図表 8-3 必要な医療的ケアの内容】

該当者 42 人（回答者数 41 人、無回答 1 人）；複数回答



【図表 8-4 必要な医療的ケアの内容】

該当者 42 人（回答者数 41 人、無回答 1 人）；複数回答

回答者（41人）のみ（複数回答）	人数（人）	割合 (%)
けいれん発作への対応が必要である	29	70.7
痰の吸引が必要である	12	29.3
胃ろうで栄養注入が必要である	7	17.1
気管切開をしている	2	4.9
自己導尿・持続的導尿が必要である	0	0.0
持続的な酸素吸入が必要である	0	0.0
人工呼吸器を装着している	0	0.0
その他	12	29.3

医療的ケアの内容で「その他」に記述された内容には、以下のような記述があった。

<記述例>

<毎日ではないが、条件つきで必要>

- ・風邪などのとき、吸引必要。
- ・一日三回の吸入。
- ・酸素吸入。

<排泄に関すること>

- ・肛門の手術をしているため、毎日浣腸する。
- ・浣腸によってのみ便を出す。

<栄養・食事に関すること>

- ・経管栄養のため、チューブ挿入。

<治療に関すること>

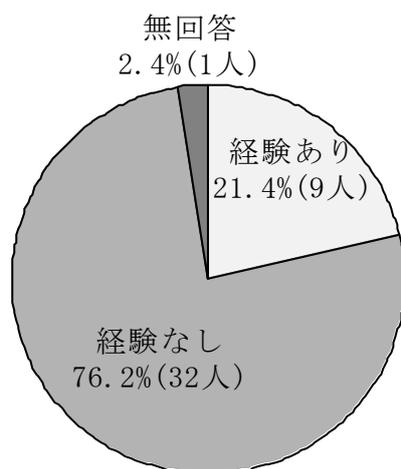
- ・病気の進行を抑えるため、毎日薬の服用をしている。
- ・目薬・ぜんそく等の薬。
- ・食事治療。
- ・血圧計る、尿量（一日の）水分量（食事も含めて）。

問 9-1 医療的ケアと福祉サービス

医療的ケアを必要とする 42 人に対して、医療的ケアが必要なために、福祉サービスの利用ができないという経験の有無についてたずねた。その結果、「経験あり」は 21.4% であり、「経験なし」が 76.2%であった。

【図表 9-1 医療的ケアを理由とする福祉サービスの利用困難の経験】

該当者 42 人のみ



問 9-2 医療的ケアと福祉サービス

福祉サービスの利用を断られたことのある 9 人に対して、断られたサービスの種類とその理由についてたずねた。その結果、「ホームヘルプ（居宅介護）」の利用を断られた人が 7 人、「ショートステイ」の利用を断られた人が 2 人であった。また、その断られた理由は「胃ろうをつけているから」が 6 人、「食事に時間がかかるから」が 2 人、「吸入・吸引が必要だから」が 1 人であった。

【図表 9-2 医療的ケアを理由に福祉サービス利用を断られたサービス】

該当者 9 人のみ

該当者（9人）のみ（複数回答・自由記述）	人数（人）	割合（%）
ホームヘルプ（居宅介護）	7	77.8
ショートステイ	2	22.2
無回答	2	22.2
断られた理由（複数回答・自由記述）	人数（人）	割合（%）
胃ろうをつけているから	6	66.7
食事に時間がかかるから	2	22.2
吸入・吸引が必要だから	1	11.1
無回答	2	22.2

問 10 生活の場所

ほぼ全員「親と同居」。

現在の住まいの場は、「親と同居」が 95.6%、「その他」が 4.4%であった。

【図表 10 現在の住まいの場所：総数（68 人）】

	人数（人）	割合（%）
親と同居	65	95.6
その他	3	4.4
合計	68	100.0

問 11 生活の場所

平日の昼間の過ごし方については、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・養護学校。
- ・デイサービス。
- ・ヘルパーさんと買い物・ボッチャ。
- ・基本的には学校で過ごす。帰宅後は、病院での訓練に通う以外は家で過ごす。家ではビデオ（DVD）を見る。おもちゃで遊ぶ。絵本を見る。立位等の訓練をする。
- ・普通小へ通学、学校で生活している。帰ってからは家で TV ゲームや兄弟児と遊ぶ。
- ・体調の良い日は支援センターに行き、アロマセラピー、足浴入浴、音楽鑑賞など。水曜日はセンター休みのため、月 2 回訓練に行ったり、病院の検診に行ったりして過ごす。
- ・足浴したり、体幹の運動してもらったり、音楽を楽しんだり、ゲーム、外出などいろいろ。

問 12 生活の場所

休日の昼間の過ごし方については、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・家族で外食したり、大型ショッピングセンターによく出かけます。出かけないときは家族でマージャンや百人一首などゲームをすることもあります。
- ・イベント等ない時は家族は過ごします。
- ・月に一回、ガイドヘルパーさんと近場で見学・映画・ショッピング他。
- ・家でのんびり過ごしています。CD、ラジオ、テレビとか聞きながら過ごしています。
- ・世間話をして楽しめます、こちらの言うことはよくわかるのでゲラゲラ笑っている。
- ・主に家族で過ごす。祖父母宅へ行ったり、買い物など家族で出かけることが多い。

問 13 生活の場所

好んでいることについては、以下のような記述があった。

<記述例>

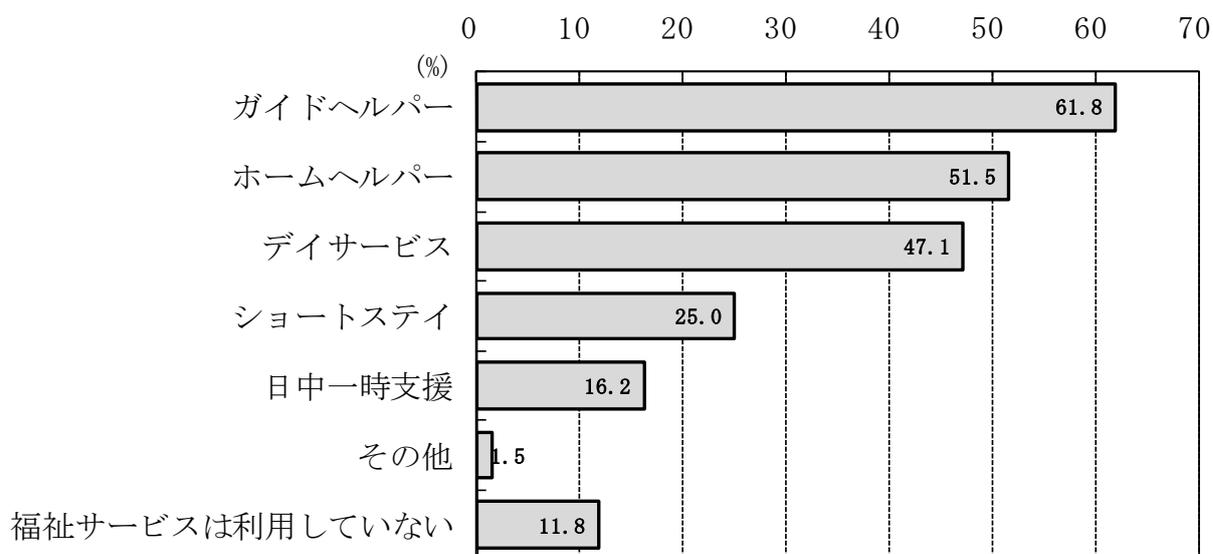
- ・野球大好き（阪神）。阪神ファンが多いので野球が始まると毎日が楽しいです。巨人ファンの家族とも喧嘩したりしながら野球中継見ます。
- ・音楽が大好きで、特に生演奏が好きです。
- ・キーボードで音楽を聞く。
- ・大きなテレビが好きで、あまり他の事は要求しないが、テレビはつけてくれとよくせがむ。
- ・パソコン・カラオケ・ボッチャ（障害者スポーツ）。
- ・ジャニーズが大好き、コンサートに行きます。CDも歌も好きです。
- ・今、一番の趣味はカメラ撮影。主に人物を撮ってます。それをパソコンに取り込んで、良い物を自分で選んでプリントアウトして、自分用のアルバムに入れています。
- ・人が声を掛けてくれること。
- ・小さいころからずっと姉のやることをやり、姉の持つものを持ちたがり、姉が話すことを話します。姉のそばが好きで、一緒にやりたがり全て手伝いたがります。
- ・モッキンをたたいて遊んだり、オルガン（おもちゃ）を押して遊んだり、氷川きよさんのCDを聞いたりしています。
- ・トランポリンなどすこ〜し刺激のある遊び。
- ・オセロ・畑での農作業・ジュース。
- ・PCで囲碁・将棋。TVのお笑い、対局番組。
- ・絵本をめくる・歌を歌ってもらう（歌ののっている本のページが分かっているらしく、そのページをあけ、たたいて、歌え！と催促する）歌を聴く。
- ・音楽を聞いて歌ったり踊ったり。ウィー（ゲーム）もこの頃買って、ゴルフなど好きでやっている。
- ・のりものに関すること全て。のりものに乗る（電車・列車・バス・車等）、のりもののDVDを見る（電車・緊急自動車等）、のりもののおもちゃで遊ぶ。
- ・好きな遊びは鉄道に関すること。鉄道の路線や時刻表を調べて旅行計画を立てたり、地図を見たりすること。
- ・好きな食べ物は野菜類（煮物等） おやつは塩味のおかきやスナック。
- ・食べる事（甘い物は特に別腹）。
- ・マクドナルドのハッピーセット（おまけが欲しい）
- ・楽しみなことはお出かけ（車もバギーでのお散歩も）。
- ・買い物に出かけるのが楽しみで、新しい服はとても喜んで着る。
- ・遊んでいる時は紐やハンガーを持って一人で楽しんでいる。
- ・誰かと一緒に本を読んだりすることが一番好きです。

問 14 福祉サービス

現在、利用している福祉サービスでは、「ガイドヘルパー（移動支援）」が 61.8%（42 人）でもっとも多く、次いで「ホームヘルパー」が 51.5%（35 人）、「デイサービス（身体障害者支援センターなど）」が 47.1%（32 人）、「ショートステイ」が 25.0%（17 人）、「日中一時支援（ピノキオなど）」が 16.2%（11 人）、「その他」が 1.5%（1 人）であり、「福祉サービスは利用していない」が 11.8%（8 人）であった。

【図表 14-1 現在利用している福祉サービス】

総数 68 人（回答者数 67 人、無回答 1 人）；複数回答



【図表 14-2 現在利用している福祉サービス】

回答者数：67人（複数回答）	人数（人）	割合 (%)
ガイドヘルパー（移動支援）	42	61.8
ホームヘルパー	35	51.5
デイサービス（身体障害者支援センターなど）	32	47.1
ショートステイ（短期入所）	17	25.0
日中一時支援（ピノキオなど）	11	16.2
その他	1	1.5
福祉サービスは利用していない	8	11.8

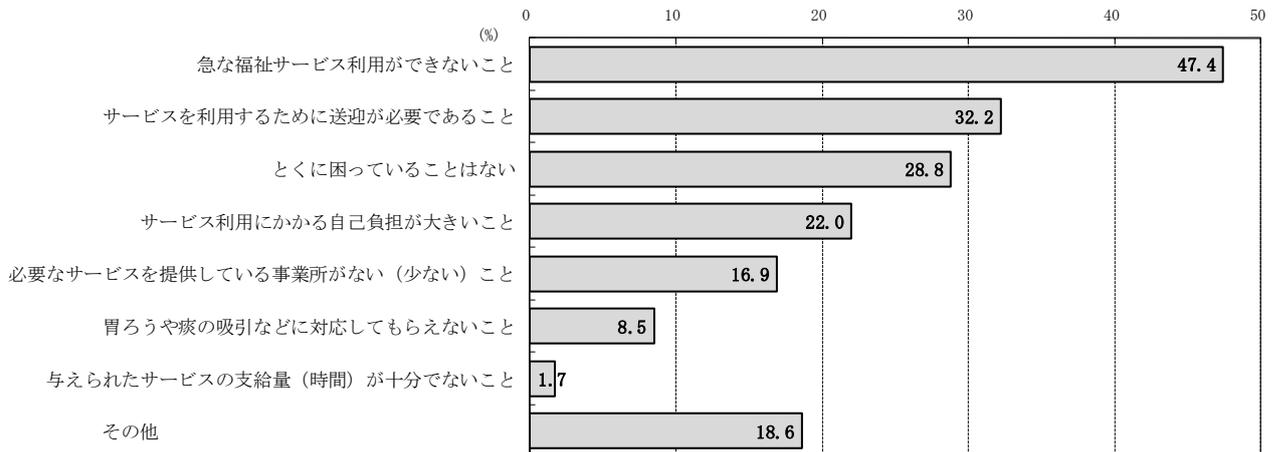
問 15 福祉サービス

10人中4人の人が、「急な福祉サービスが利用できなくて困っている」。

現在、福祉サービスを利用していると回答した59人に対して、福祉サービスの利用で困っていることをたずねた。その結果、「急な福祉サービスが利用できないこと」が47.4%でもっとも多く、次いで「サービスを利用するために送迎が必要であること」が32.2%、「とくに困っていることはない」が28.8%、「サービス利用にかかる自己負担が大きいこと」が22.0%、「必要なサービスを提供している事業所がない（少ない）こと」が16.9%、「医療的ケア（胃ろうや痰の吸引など）に対応してもらえないこと」が8.5%、「与えられたサービスの支給量（時間）が十分でないこと」が1.7%、「その他」が18.6%であった。

【図表 15-1 福祉サービス利用にともなう困難点】

回答者数 59 人；複数回答



【図表 15-2 福祉サービス利用にともなう困難点】

回答者数：59人（複数回答）	人数（人）	割合 (%)
急な福祉サービス利用ができないこと	28	47.4
サービスを利用するために送迎が必要であること	19	32.2
とくに困っていることはない	17	28.8
サービス利用にかかる自己負担が大きいこと	13	22.0
必要なサービスを提供している事業所がない（少ない）こと	10	16.9
医療的ケア（胃ろうや痰の吸引など）に対応してもらえないこと	5	8.5
与えられたサービスの支給量（時間）が十分でないこと	1	1.7
その他	11	18.6

福祉サービスの利用にあたって困っている内容で「その他」に記述された内容には、以下のような記述があった。

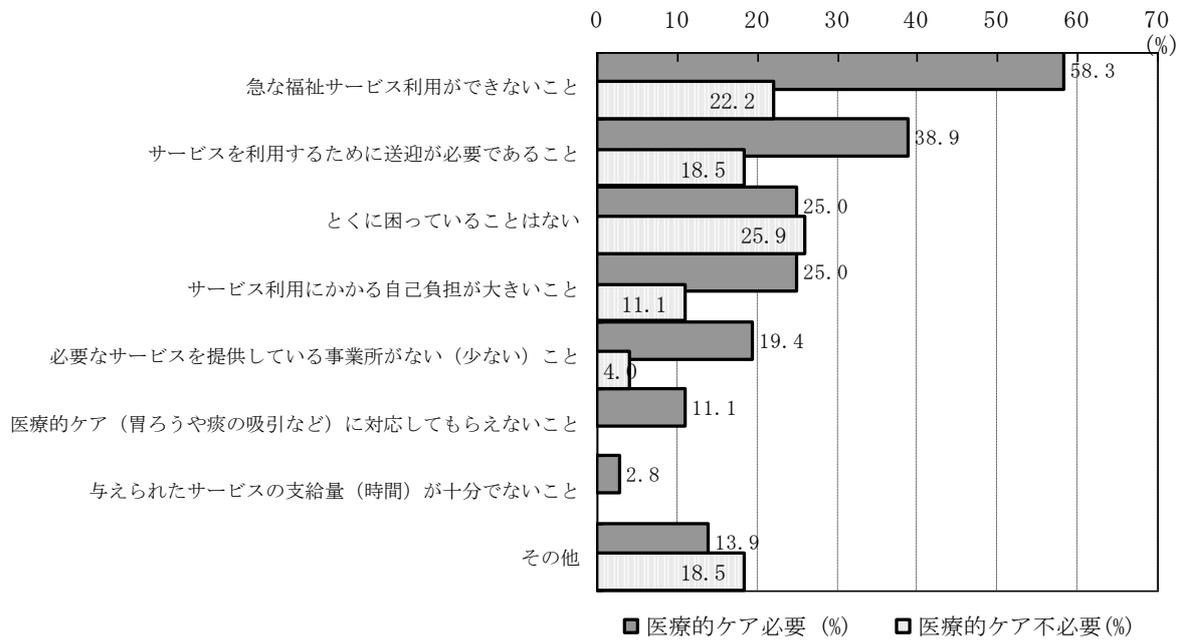
<記述例>

- ・ヘルパーさんの質。
- ・市内の近くにショートステイできる場所がない事。
- ・近くにショートステイが無い事。急なショートステイが困る。
- ・ショートステイをするところが1か所しかないので、いつも利用満席にて一度も利用していない。
- ・気軽に一泊できるような場所（支援費の中で）。
- ・二回ほど予定の時間になっても来られなく、すっぽかしをされました。
- ・本当に必要な事には使えない。学校の送迎など。
- ・以前感じていたのはガイドヘルパーの資質。
- ・日常介護している者が動けない時の代わりとして、動いていただける人がすぐに見つからない事。
- ・介護の者が入院などの時、とめる所がない。
- ・身体が大きくなってきて、トイレをさせるのが大変になってきた。

「医療的ケアが必要な人」ほど、困っていることが多い。

福祉サービスの利用で困っていることについて、医療的ケアの必要な家族群（36人）と医療的ケアの必要でない家族群（19人）に分けて集計した。医療的ケアが必要な家族群36人のうち約6割が「急な福祉サービスを利用できないこと」を、約4割が「送迎が必要であること」を困っていることとしてあげている。一方、医療的ケアが不要な家族群19人のうち「とくに困っていることはない」と回答した人の割合が25.9%でもっとも高かった。

【図表 15-3 医療的ケアの必要度別：福祉サービス利用にともなう困難点】
 医療的ケア必要な群：36人、医療的ケア不必要な群：19人；複数回答



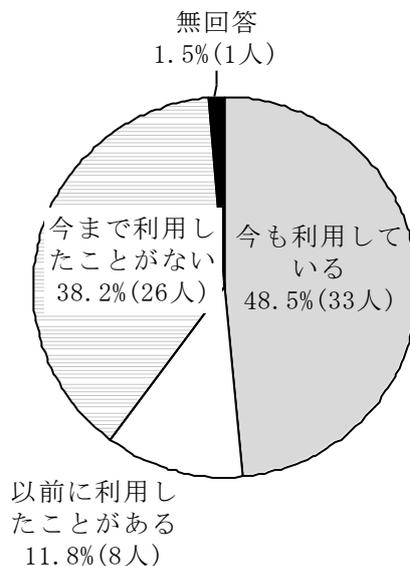
問 16 福祉サービス__ホームヘルパーの利用

ホームヘルパーを利用している家庭は、半分以下。

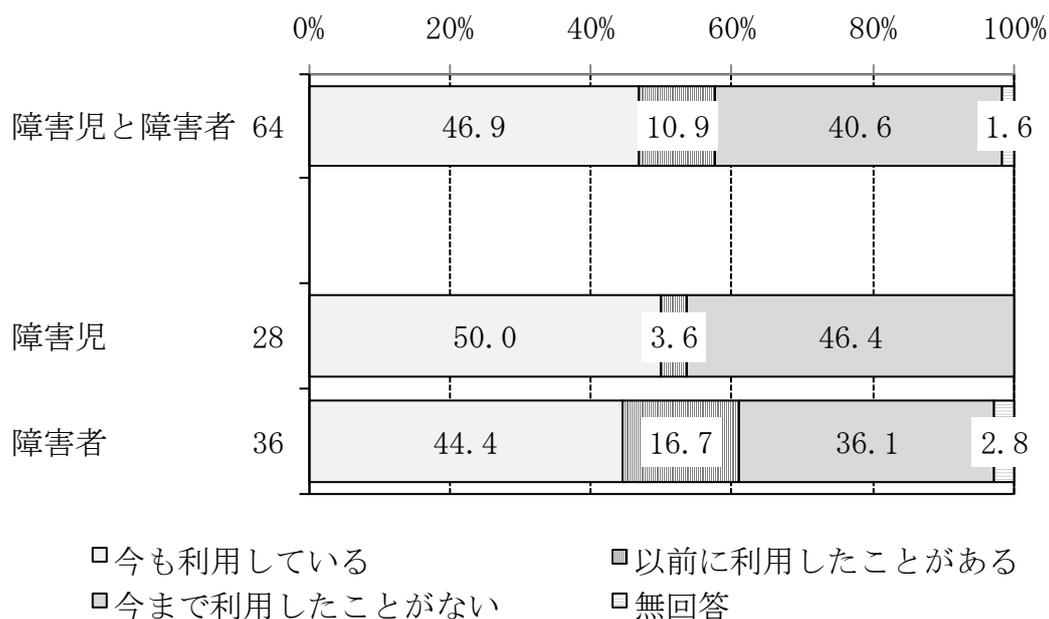
利用をやめている家庭も1割。

自宅における「ホームヘルパー」の利用状況については、「今も利用している」が48.5%でもっとも多く、次いで「今まで利用したことがない」が38.2%、「以前に利用したことがある」が11.8%であった。

【図表 16-1 ホームヘルパーの利用状況：総数 68人】



【図表 16-2 障害児者別：ホームヘルパーの利用状況：該当者 64 人】



問 17 福祉サービス__ホームヘルパーの利用

ヘルパーに依頼する内容は限られている。

現在「ホームヘルパーを利用している」と回答した 33 人に対して、依頼している内容をたずねた。その結果、ホームヘルパーには、どのようなことを頼んでいるかについては、「入浴」が 39.4%でもっとも多く、次いで「外出ガイド」が 24.2%、「ボッチャ」が 18.2%、「通院介助」が 12.1%であった。これらの回答の中には、ホームヘルプと、ガイドヘルプの区別がついていないケースが含まれていると考えられる。

【図表 17 ホームヘルパーへの依頼内容：該当者 33 人】

該当者 (33人) のみ (複数回答;自由記述)	人数 (人)	割合 (%)
入浴	13	39.4
外出ガイド	8	24.2
ボッチャ	6	18.2
通院介助	4	12.1
無回答	3	9.0

問 18 福祉サービス_ホームヘルパーの利用

以前「ホームヘルパーを利用したことがある」と回答した8人に対して、そのときに依頼していた内容をたずねた。その結果、「入浴」が87.5%でもっとも多く、次いで「通院介助」が12.5%であった。また、利用しなくなった理由については、以下のような記述があった。

【図表 18 以前ホームヘルパーに依頼していた内容：該当者8人】

該当者（8人）のみ （複数回答；自由記述）	人数（人）	割合（%）
入浴	7	87.5
通院介助	1	12.5
無回答	1	12.5

<記述例>

- ・全介護できる人がいないため。
- ・きょうだい児が気を使うため。
- ・母が腰痛で動けなかったのが利用したが、今は治ったため利用していない。
- ・親の具合が悪くなり見守りをしていたが、体調が良くなってきたので利用しなくなった。
- ・時間の都合。

問 19 福祉サービス_ホームヘルパーの利用

ホームヘルパーを利用しない理由については、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・現在までは家族・祖父母の協力でなんとか過ごせたので利用しなかった。
- ・どんな時に助けてもらえばいいのか、どんな風に助けてもらえばいいのかわからない。
- ・まだ家族だけでだいじょうぶだと思っているため。
- ・医療的ケアが必要なため、そばに親がついてないといけないのであまり意味がない。
- ・義理の母が自宅に他人が入られると困ると言われるので利用していません。
- ・まだ私自身（母）が元気であること。
- ・今の段階で利用しなくても生活できている。
- ・ぎりぎりまでは身内で世話をしなくては・・・という様に自分では捉えている。

問 20 福祉サービス__宝塚市

たくさん記入がありました。ほんの一部です。

宝塚市の福祉サービスの利用で気になることについては、以下のような記述があった。

<記述例>

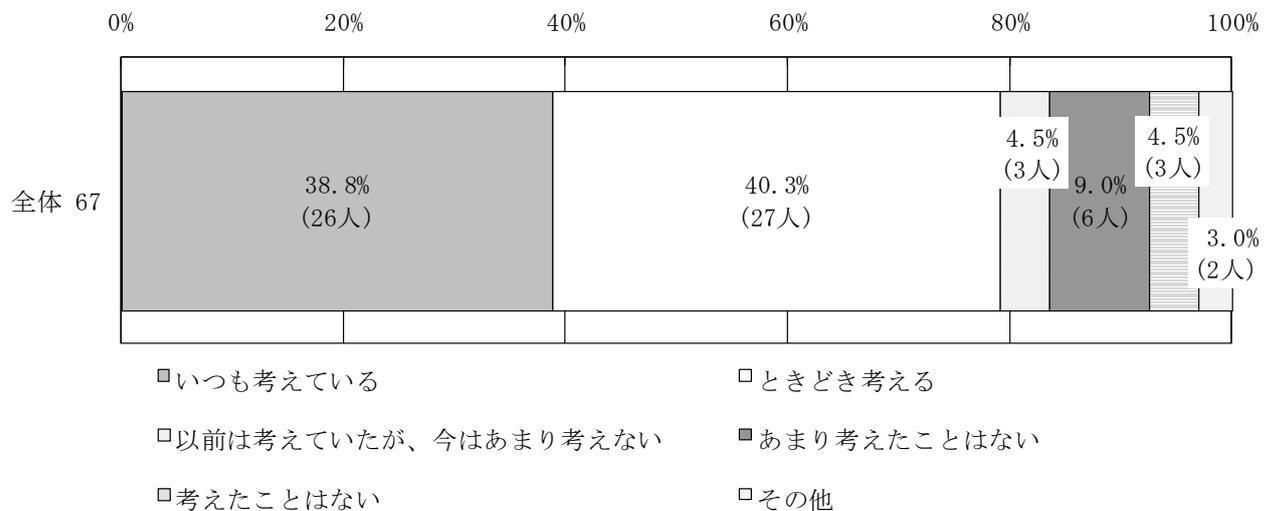
- ・市に登録している業者さんは多くあると聞いているので、これからいろいろ情報を集めたいと思っています。
- ・医ケアや吸引など対応してもらえない事。ヘルパーでも講習など受けて吸引や注入（経管栄養）するべきである。
- ・サービスなのかどうかわかりませんが、紙オムツの件（購入代金の補助を受けている方々がいる）、指定業者が決まっていますから購入するようになってますが価格がとても高い。
- ・ナースの指示通りにしか介護してもらえない。例えば、食事について、家では普通食を食べさせているのに、デイでは咳込み、誤飲を気にして、ナースが全ての食材をミキサーにかけて食べさせており、親が見本を見せても絶対許可せず、子供は嫌がって口を開けないため食事が充分取れない。
- ・作業所に通いながら、デイサービスを利用できない事。一日作業はつらい。
- ・タクシーチケットがもう少し支給してほしい（一回あたりもらえる枚数が少ない）。
- ・日中一時支援のサービスが受けれるところが、1か所しかない。人数に限りがあり、常に利用する人が優先になり、緊急時に使えない。
- ・肢体不自由な事もあり、車での移動が必要ですが、家の都合や体調不良（親の）で、使えない場面があり、費用負担も少なく、車での送迎が、ヘルパーさんと共にしてもらえたら助かります。
- ・卒業後のデイサービスがあるが、その内容が充実しているとは思えないし、生活を充実するためにヘルパー利用という手もあるが、個人的活動になってしまうので、デイ生活での充実をはかって頂きたいです。
- ・宝塚市だけではないと思いますが、学校の送迎をヘルパーさんをお願いできない事。送る親が病気になると（急に熱が出た）、学校を休まないといけない事。
- ・デイサービスを利用していますが、だんだんこちらが思っているサービスが受けられなくなっています（子供が初めて利用していた時から比べると）。
- ・スタッフの方もどうしても忙しくなって利用者さん達に「ちょっと待って」がなくなってしまうと思いました。
- ・新しい制度などの説明や、告知（広報）をしてほしい。
- ・親が急病の時、すぐ来てくれるヘルパーさんを頼めるのでしょうか。
- ・トラブルがあった訳ではないのですが、本人はおしゃべりもできない為、ヘルパーさんが適当にされていると感じる方がいて、トイレ等に行ってもらってなかったり、些細な事ですが、明るく慣れて長い方なので言いにくく、気になることがあります。
- ・障害福祉サービスと地域生活支援事業サービスの自己負担金が別々に支払うため、負担が多くなる。

問 21 今後の生活__親離れ・子離れ

8割の人が「親離れ・子離れ」を考えている。

障害のある本人1人を除く67人の回答者に対して、障害のある子にとっての「親離れ・子離れ」についてたずねた。その結果、「ときどき考える」が40.3%でもっとも多く、次いで「いつも考えている」が38.8%、「あまり考えたことはない」が9.0%、「考えたことはない」が4.5%、「以前は考えていたが、今はあまり考えない」が4.5%、「その他」が3.0%であった。

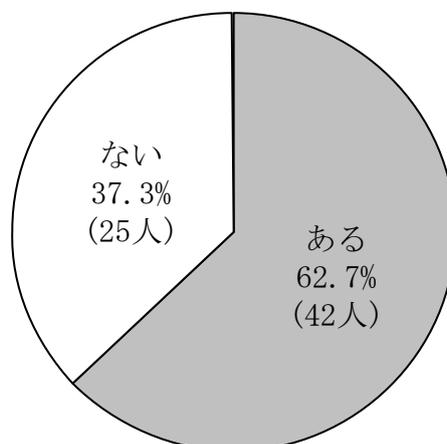
【図表 21 親離れ・子離れについて考えた経験：総数 67 人】



問 22 今後の生活__親離れ・子離れ

障害のある本人1人を除く67人の回答者に対して、障害のある子と離れて暮らしていることを想像したことがあるかについてたずねた。その結果、「ある」が62.7%であり、「ない」は37.3%であった。

【図表 22 離れて暮らす想像の有無：総数 67 人】



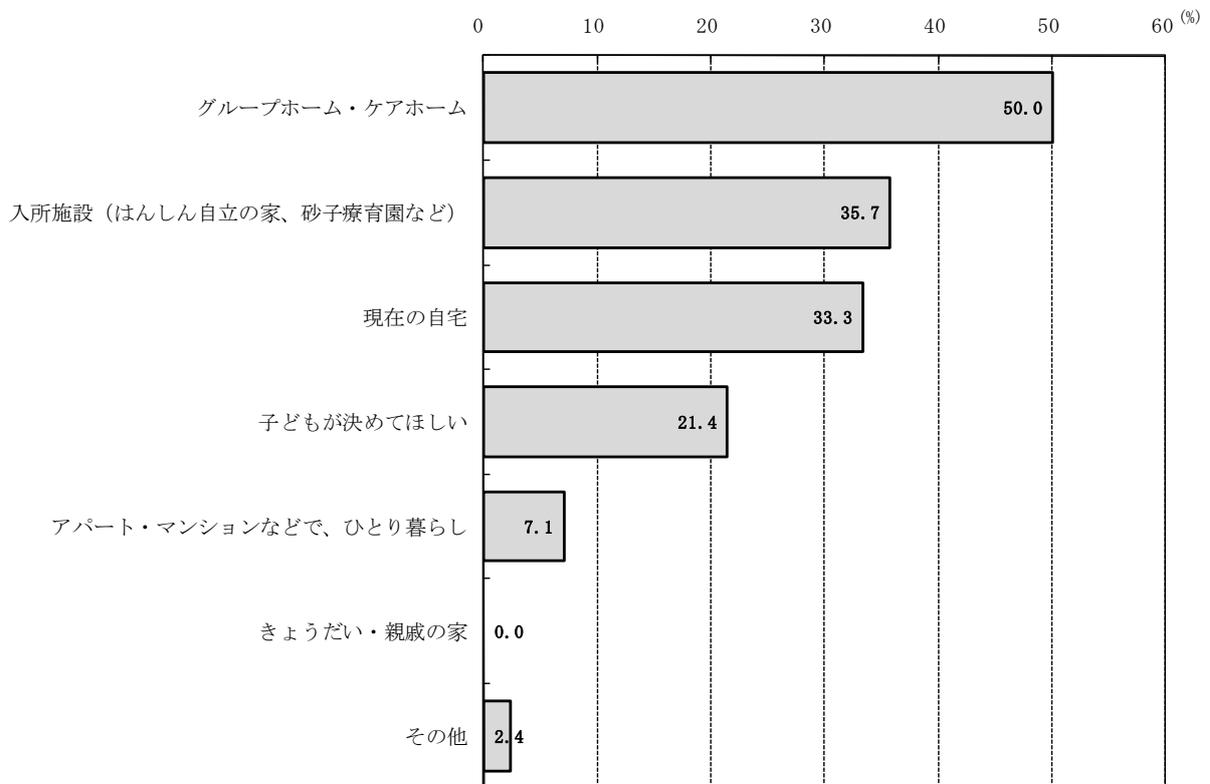
問 23 今後の生活__親離れ・子離れ

5割の人が「グループホーム/ケアホーム」を希望。

障害のある子と離れて暮らしていることを想像したことがあると回答した42人に対して、障害のある子と離れて暮らしている場合、どこで暮らすのがよいと思うかについてたずねた。その結果、「グループホーム・ケアホーム」が50.0%でもっとも多く、次いで「入所施設」が35.7%であり、「現在の自宅」が33.3%、「子どもが決めてほしい」が21.4%、「アパート・マンションなどで、ひとり暮らし」が7.1%、「その他（わからない）」が2.4%であった。

【図表 23-1 離れて暮らす場所の予測】

該当者数 42 人；複数回答



【図表 23-2 離れて暮らす場所の予測：該当者数 42 人】

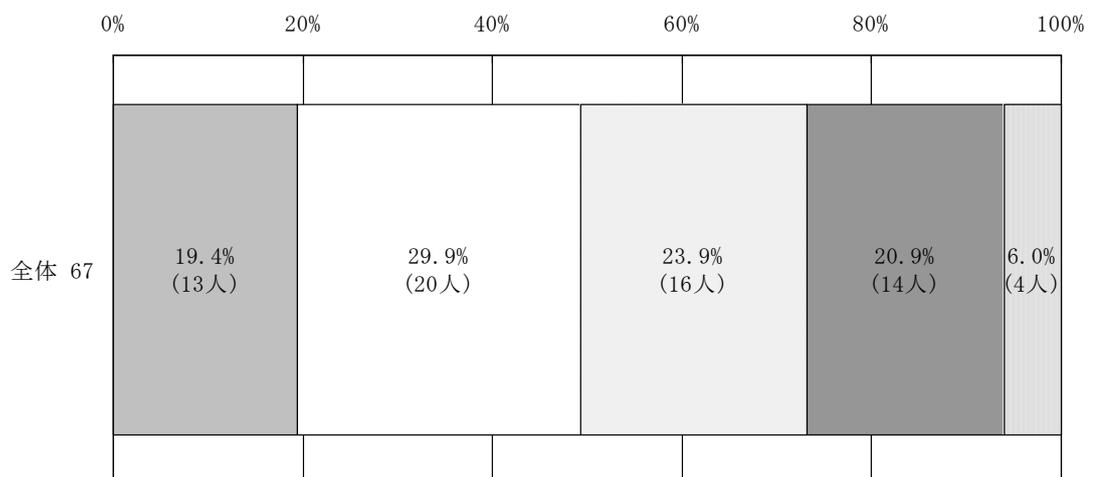
該当者 (42人) のみ (複数回答)	人数 (人)	割合 (%)
グループホーム・ケアホーム	21	50.0
入所施設 (はんしん自立の家、砂子療育園など)	15	35.7
現在の自宅	14	33.3
子どもが決めてほしい	9	21.4
アパート・マンションなどで、ひとり暮らし	3	7.1
きょうだい・親戚の家	0	0.0
その他 (わからない)	1	2.4

問 24 今後の生活__親離れ・子離れ

24 時間以上、子どもをヘルパーにまかせることができるお母さんは 5 割。

障害のある本人 1 人を除く 67 人の回答者に対して、ヘルパーを 24 時間利用できるならば、どれくらいの間家族がいなくても、一人で自宅にて生活ができると思うかについてたずねた。その結果、<ヘルパーを利用できれば、3 時間以上 24 時間未満ならひとりで生活できると思う>が 29.9%でもっとも多く、次いで<ヘルパーを利用できれば、1 日以上 1 週間未満ならひとりで生活できると思う>が 23.9%、<ヘルパーを利用できれば、1 週間以上ひとりで生活できると思う>が 20.9%、<ヘルパーを利用できたとしても、ひとりで生活することはできないと思う>が 19.4%でもっとも少なくなっていた。

【図表 24 ヘルパー利用によるひとり生活の可能性：総数 67 人】



- ヘルパーを利用できたとしても、ひとりで生活することはできないと思う
- ヘルパーを利用できれば、3時間以上24時間未満ならひとりで生活できると思う
- ヘルパーを利用できれば、1日以上1週間未満ならひとりで生活できると思う
- ヘルパーを利用できれば、1週間以上ひとりで生活できると思う
- 無回答

問 25 今後の生活__一人暮らしの条件

どのようなサービスがあれば、一人で自宅で暮らせるようになるかについては、以下のような記述があった。

<記述例>

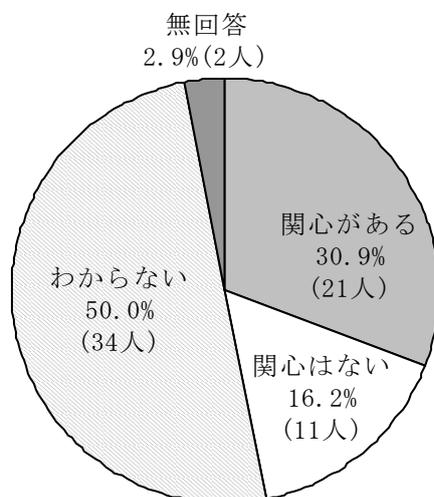
- ・医療行為が可能なヘルパーさんがいる。
- ・できるだけ人が一緒に居て関わってほしい。
- ・何もできないのですべてお世話してくれる方がいれば、できると思う。
- ・夜中にお布団をかぶせるとかが一人では無理なので、夜間は緊急で対応していただけるよう、そばには補助していただける方が必要。
- ・親身なサービス。
- ・子どものことが理解して下さるヘルパーさんが対応してくれる。
- ・筋緊張が極度に強いため、姿勢の保持に細かい配慮が必要なため、その気配りができる、人的信頼のできる人がいれば可能（女性では無理と考えます、力的に）。
- ・食事の用意。
- ・水分・尿量・室内温度の安定した生活。
- ・生活のリズムがきちんとしていることで、時間をきちんとしていただけること。
- ・趣味（？）を一緒に楽しむ事が出来る人が来てくれる。
- ・“人”と関わるのが大好きなので、常に言葉かけが必要としている。
- ・泊まり込み、または、ヘルパーの家で、全介護できるヘルパーが必要。

問 26 今後の生活__一人暮らしの条件

コンピューターで管理した自宅で、重度障害者が一人暮らしをできるようにするための福祉工学実験への関心の有無は、「関心がある」は30.9%であり、「関心がない」は16.2%、「わからない」が50.0%であった。

【図表 26 コンピューター管理による1人暮らしへの関心の有無

：総数 68 人】



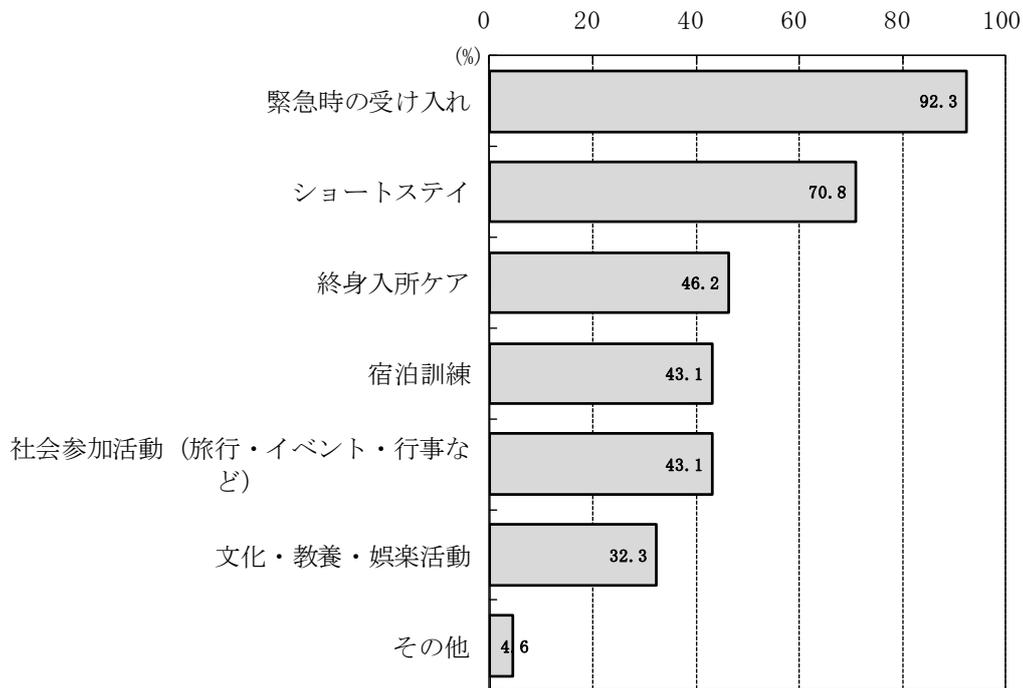
問 27 今後の生活__新たな小規模ホームに期待する福祉サービス

期待するのは、医療的ケアのできる緊急ステイとショートステイ。

医療的ケアに対応できる小規模のホームが新たにできるとすれば、そこではどのような福祉サービスを期待するかについてたずねたところ、65人から回答があった。その結果、「緊急時の受け入れ」が92.3%でもっとも多く、次いで「ショートステイ」が70.8%であり「終身入所ケア」が46.2%、「宿泊訓練」と「社会参加活動（旅行・イベント・行事など）」が各々43.1%、「文化・教養・娯楽活動」が32.3%、「その他」が4.6%であった。

【図表 27-1 新たな小規模ホームに期待する福祉サービス:総数 68 人】

回答者数 65 人、無回答 3；複数回答



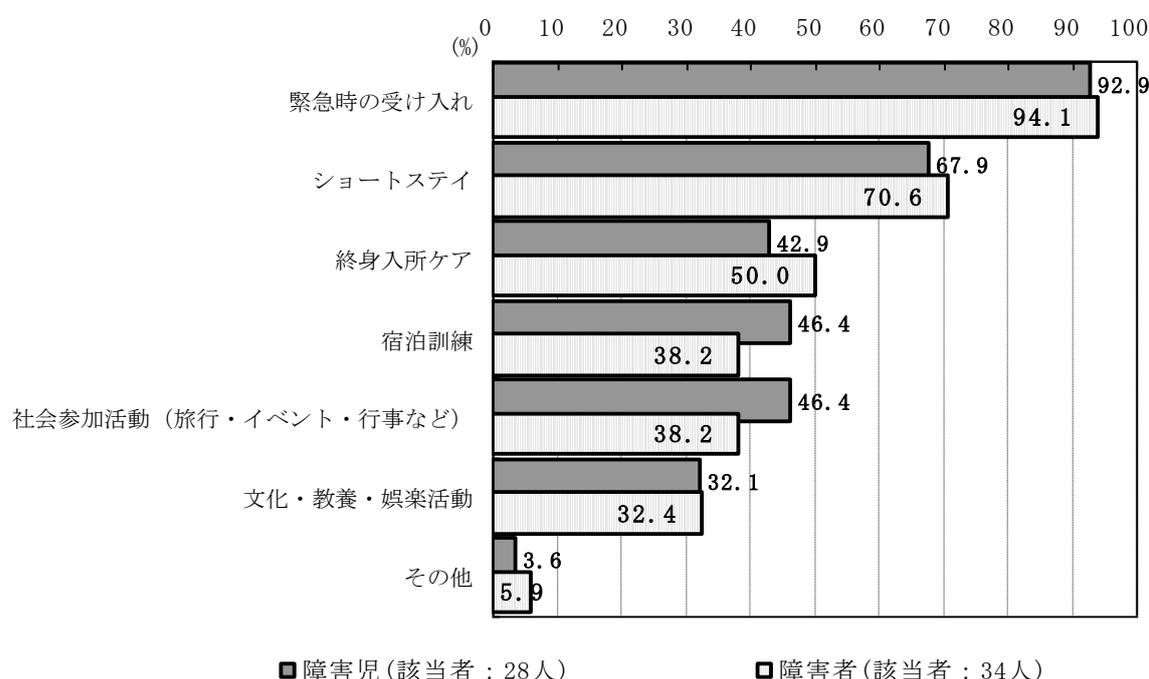
【図表 27-2 新たな小規模ホームに期待する福祉サービス：総数 68 人】

回答者数 65 人、無回答 3；複数回答

回答者数：65人（複数回答）	人数（人）	割合 (%)
緊急時の受け入れ	60	92.3
ショートステイ	46	70.8
終身入所ケア	30	46.2
宿泊訓練	28	43.1
社会参加活動（旅行・イベント・行事など）	28	43.1
文化・教養・娯楽活動	21	32.3
その他	3	4.6

新たな小規模ホームに期待する福祉サービスについて、18歳未満の障害児の家族と18歳以上の障害者の家族で回答を比較した。その結果、「緊急時の受け入れ」、「ショートステイ」、「文化・教養・娯楽活動」では、ほとんど両者に違いはみられなかったが、「終身入所ケア」は障害者の家族で、「宿泊訓練」、「社会参加活動」では障害児の家族のあいだで期待が相対的に高い傾向がみられた。

【図表 27-3 障害児者別：新たな小規模ホームに期待する福祉サービス】
 障害児：28人、障害者：34人；複数回答

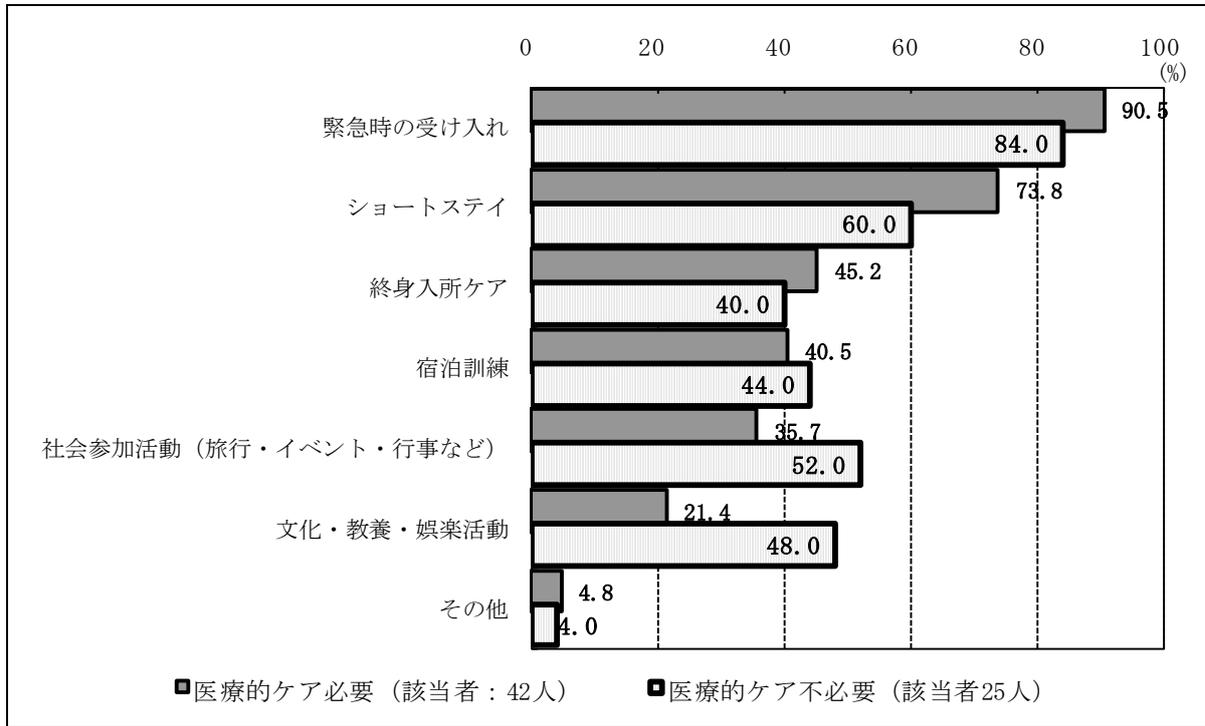


新たな小規模ホームに期待する福祉サービスについて、医療的ケアが必要な家族群（42人）と医療的ケアが必要でない家族群（25人）で回答を比較した。その結果、医療的ケアが必要な家族群では「ショートステイ」への期待が相対的に高く、医療的ケアが必要でない家族群では「宿泊訓練」、「社会参加活動」、「文化、教養、娯楽活動」への期待が相対的に高い傾向がみられた。しかし、このことは、医療的ケアが必要な人たちにとって、「社会参加活動」や、「文化、教養、娯楽活動」への期待が低いということの意味しているのではなく、医療的ケアが必要な人たちがそれらの活動のメリットを十分に享受できていない現状を反映した数値と読みとるべきであろう。

【図表 27-4 医療的ケア必要度別：

新たな小規模ホームに期待する福祉サービス】

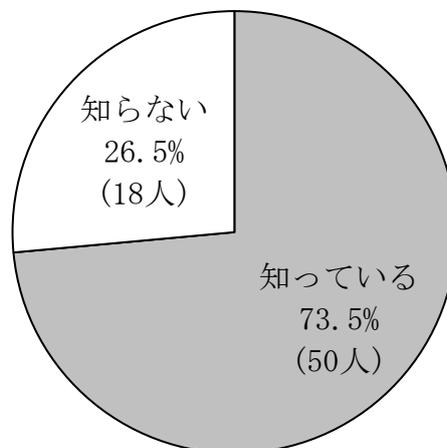
医療的ケア必要：42人、医療的ケア不必要：25人；複数回答



問 28 今後の生活__自立に向けた宿泊訓練

安倉南障害者支援センターの宿泊訓練室についての認識は、「知っている」が73.5%であり、「知らない」が26.5%であった。

【図表 28 安倉南障害者支援センターの宿泊訓練室の認知度：総数 68人】



問 29 今後の生活__自立に向けた宿泊訓練

安倉南障害者支援センターの宿泊訓練室の利用実績が少ない理由については、以下のよう
な記述があった。

<記述例>

- ・ヘルパーさんを家のほうで頼むのなら、家でよい。
- ・どうやって利用できるのかわかりにくい。
- ・ある事を知らなかった。
- ・公にあまりしていないこと。
- ・掃除ができていない（利用が少ないから）。
- ・自己負担が大変なこと。
- ・宿泊してくださるヘルパーさんを捜すのが難しくて利用できていない。
- ・医療的ケアができない。
- ・宿泊訓練は必要だと思うが、なかなか踏み出せない。
- ・色々な手続きがあるので面倒。
- ・18歳未満なので利用できない。
- ・急な利用（夜間も含めて）をしたい時、使いにくい。
- ・鍵の受け渡し等、管理方法がややこしい。
- ・利用したい時、まずどこへ連絡するのか、一度も利用しなければ、知るチャンスが無いのでは？
- ・具体的なノウハウを未だよく知らない。
- ・洗濯が出来ないので、着替えの荷物が多くなり大変。
- ・調理が出来ないので不便。
- ・冬は入浴室が大変、冷えて利用できない。
- ・宿泊訓練という言葉の意味がそもそも分からない。
- ・安心できないから。
- ・なんだか面倒くさい部分がある。
- ・大きな設備に、ヘルパーさんと子どもと2人では夜は怖いかも。
- ・全介助が必要な者は個人的にそこを利用するより、はんしん自立の家等にショートステイする方が現実に近いから。

問 30 記入者自身について_してみたいこと

お母さんがしてみたいことは、「旅行」と「自分みがき」。

ちょっと気になる「無回答」のお母さんたち。

母親 62 人に対して、障害のある子どもがひとりで生活できるとするなら、あなたが「してみたいこと」はどのようなことか、第 1 位から第 4 位までを記入してもらった。とくに第 1 位と第 2 位に記述されたものについて着目してみる。

第 1 位および第 2 位においても回答の割合が相対的に高かったものは、「旅行」、「趣味・習い事・勉強・スポーツ・資格」であった。その一方で、第 1 位の無回答の割合は 19.4% (12 人) あり、第 2 位の無回答の割合は 37.1% (23 人) に増加し、さらに第 3 位になると 61.3% (38 人)、第 4 位になると 75.8% (47 人) に増加していた。これは、記入者が今でも「してみたいこと」ができていないからなのか、あるいは「してみたいこと」を考える余裕がなく過ごしていることを反映しているのだろうか。

【図表 30 記入者自身のしてみたいこと：該当者 62 人】

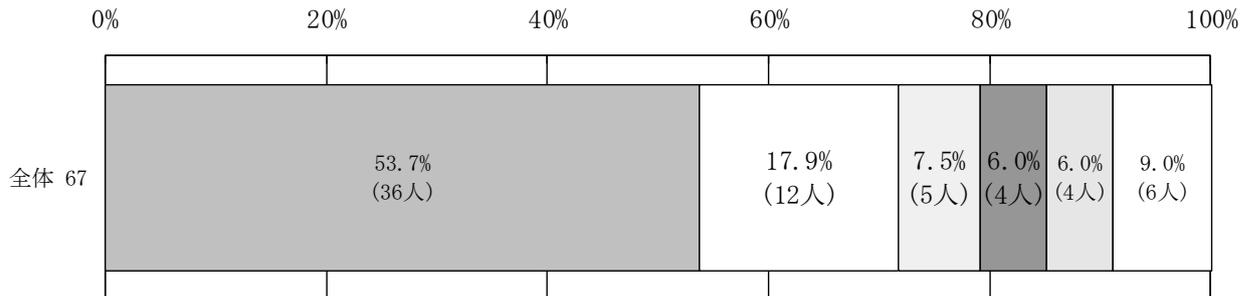
第 1 位	人数 (人)	割合 (%)	第 2 位	人数 (人)	割合 (%)
旅行	21	33.9	旅行	13	21.0
趣味・習い事・勉強・スポーツ・資格	7	11.3	趣味・習い事・勉強・スポーツ・資格	12	19.4
時間を気にしないで行動したい・のんびり・買い物	6	9.7	外出・コンサート	5	8.1
仕事	4	6.5	仕事	4	6.5
親の世話・親とゆっくり過ごす	4	6.5	ゆっくり眠りたい	3	4.8
外出・コンサート	2	3.2	一人で自由気まま・テレビ・なにもせずボーっと過ごしたい	1	1.6
一人で自由気まま・テレビ・なにもせずボーっと過ごしたい	2	3.2	社会貢献・ボランティア	1	1.6
ゆっくり眠りたい	2	3.2	無回答	23	37.1
社会貢献・ボランティア	1	1.6	合計	62	100.0
現状が精一杯	1	1.6			
無回答	12	19.4			
合計	62	100.0			

問 31 記入者自身について__自分の介護の場

5割のお母さんが、老後は自宅で介護を希望。

障害のある本人1人を除く67人の回答者に対して、今後あなたが高齢となり、家族による介護が受けられない場合、自分の介護はどこですてもらうことを期待しているかたずねた。その結果、「自宅で訪問介護・訪問看護サービスを利用したい」が53.7%でもっとも多く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）」が17.9%であり、「有料老人ホーム」が7.5%、「グループホーム」が6.0%、「その他」が6.0%であった。

【図表 31 記入者自身が介護を受けたい場：総数 67 人】



- 自宅で訪問介護・訪問看護サービスを利用したい
- 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）
- 有料老人ホーム
- グループホーム
- その他
- 無回答

問 32 記入者自身について__世代間支援

障害のある本人1人を除く67人の回答者に対して、障害のある子どもを育てるうえで、あなた自身の母親から受けた支援の認識についてたずねた。その結果、「おおいに助けてもらった」が34.3%でもっとも多く、次いで「ほとんど助けてもらっていない」が17.9%、「母には助けられない事情があった」が16.4%、「ある程度は助けてもらった」が14.9%、「あまり助けてもらっていない」が10.4%、「その他」が4.5%であった。

【図表 32 記入者自身が自分の母親から受けた支援の認識：総数 67 人】

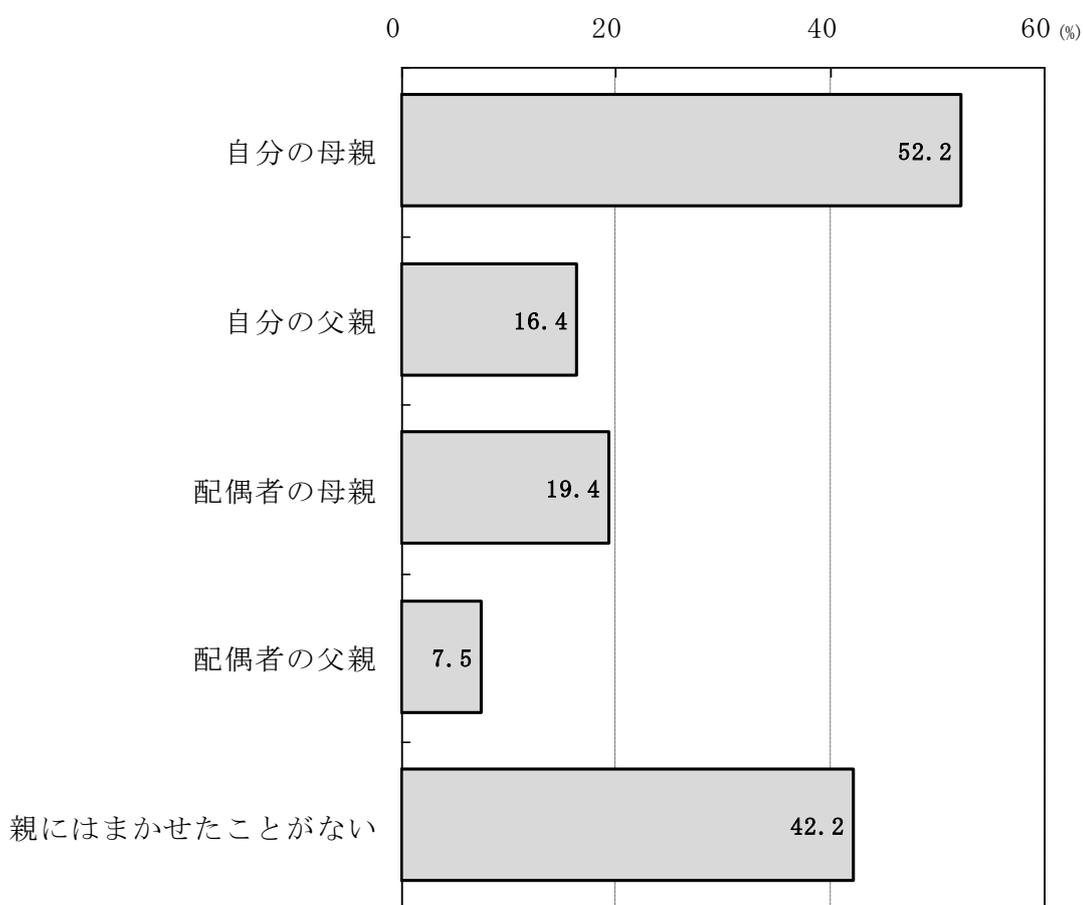
	人数（人）	割合（%）
おおいに助けてもらった	23	34.3
ある程度は助けてもらった	10	14.9
あまり助けてもらっていない	7	10.4
ほとんど助けてもらっていない	12	17.9
母には助けられない事情があった	11	16.4
その他（両親他界2、まったく助けてもらっていない1）	3	4.5
無回答	1	1.5
合計	67	100.0

問 33 記入者自身について__世代間支援

障害のある本人1人を除く67人の回答者に対して、障害のある子どもの介護を、その子どもからみて祖父母にまかせたことがあるかについてたずねた。その結果、「自分の母親」にまかせたことがある人が52.2%でもっとも多く、次いで「親にはまかせたことがない」が42.2%であり、「配偶者の母親」が19.4%、「自分の父親」が16.4%、「配偶者の父親」が7.5%であった。

【図表 33 障害児の介護に関する祖父母の支援】

総数 67 人（回答者数 65 人、無回答 2 人；複数回答）



問 34 親離れ・子離れ__世間一般

親と同居の未婚の子の増加は、「よくない」と答えた人が7割近く。

障害のない子どもたちのあいだでも、親離れ・子離れが難しいケースが増えていく日本社会の傾向について、一般的にどのように思うかたずねた。「親と同居する40歳以上の未婚の子ども」が増えていくことについては、「どちらかといえばよくないことだと思う」が48.5%でもっとも多く、次いで「よくないことだと思う」が17.6%であり、「どちらかといえば悪くないことだと思う」が16.2%、「悪くないことだと思う」が8.8%であった。

問 35 普段の生活

普段の生活で気になる点については、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・体重が重くなり緊張も強いので、家の中からバギー・車等少しの移動も大変になってきました。
- ・現在の子どもの居場所は、家・学校・病院（訓練等）のいずれかです。普通の小学生であれば 友達と遊ぶ。おけいこ事に通う等が、できるところが身近にあればと思います。
- ・ヘルパーの人手が足りない。
- ・親がみれないとき等、何でもヘルパー利用になるが、もっとボランティアの方の力が欲しい。
- ・いろんな体験をさせてあげたいが、社会的には受け入れが難しいことが多い。
- ・将来、1人になった時に意思の伝達もできないので、どのように生活するか想像ができない。
- ・子どもの機嫌が悪くなったときに、対処のしようがないことか。
- ・電車だと人に迷惑をかける事が多く（ふざけて人をたたいたりけったりするので）どうしても、タクシーを利用する事が多いが、タクシーチケットを使っても負担金が多い（大阪まで行くので）。
- ・宝塚市内で、障害者をみていただく病院が無く、風邪をひいてもかかりつけの病院まで（30分車で）かかるので、近くで安心してみていただけて、入院・点滴等が出来るような病院がほしい。
- ・ピノキオ運営は社会福祉協議会というしっかりした組織ですので、日曜日など条件つきでも、また、金額を実費にしてもお世話になりたいときもあるので、以前から願っていることですが、何らかの形でも実現できないか・・・これが一番の願いです。
- ・言葉が（本人の）相手に伝わらないことが多く、それであまり話しないのかなあーと思うが、この頃「ねえねえ」とよんだり、自分から話そうとすることが少し増えてきているので見守っていきたいと思う。
- ・あたりまえに外に出やすい生活になるといいなと思っている所です。
- ・放課後、休日などに同年代の子どもと一緒に過ごせる場があればよいと常々思っています。
- ・子供の体調や天気などを考えると、行きたい日や時間にはヘルパーさんやタクシーが手配できないことが多いので、当日に対応できれば・・・と思っています。
- ・しおんで前は、宿泊に行っていたのに行けなくなったので、子どもも楽しみがなくなりました。
- ・トイレのことを考えると外出が億劫になる。
- ・登下校や子どもの入院付き添い時には祖父母に助けてもらっていますが、助けがなければきょうだいはどうなるのかと不安です。

問 36 このアンケート

このアンケートに対するご意見・ご感想については、以下のような記述があった。

<記述例>

- ・みなさんのアンケート結果が、今後の福祉サービスに役立つことを期待しています。
- ・もっと掘り下げてもらってもよかったかも・・・。
- ・このアンケートで何か見えてくれることを祈っています、ありがとうございました。
- ・子供に楽しみが増えて、親は手抜きが出来て、になる様に制度を利用していきたいと思います。
- ・アンケートの成果を期待しています。
- ・このアンケートに答えることによって、今まであまり深く考えなかった親離れ・子離れについて、夫婦で考える事が出来ました。
- ・社会全体で単身世帯が増えていると TV で見て、ますます社会福祉の需要が増えそうなので、障害者にも厳しくなるのかな（人手不足等）と思います。
- ・このアンケートによって、母が安心して、先に死んでもよい、安心して先に行ける生活になってほしい。
- ・私たちの声を聞いて頂き、役立てて頂ければ、ほんとうにうれしいです。
- ・私が動けなくなった時は、子どもと同じ家（自分の家）で、ヘルパーさんに助けてもらい、生活したい。
- ・これから大きくなる子どもたちの未来が可能性豊かなものになれば・・・と
思っています。
- ・問 7-2 での、誰が、というよりも、どのような話し方をする人が、受け答え
する人かで、だいぶ答えが違ってくるように思いました。
- ・アンケートに記入すると、どのようなことがわかるのか？
- ・こういった分野で研究されている方々がいらっしゃると思うだけで、明るい
気持ちになります。
- ・なかなか○をつけるにしてもバッチリ当てはまらないこともあり、迷いなが
ら○しています。
- ・先生のこのアンケートによって、課題が見えてくるのを期待しています。
- ・将来のことを考えるいい機会になった。
- ・幅広い世代で構成されている会なので、世代が変わると考え方も違うと思う
ので、他の方々がどのように考えていらっしゃるかが分かること（知ること）
は、大切だと思います。
- ・子どもの今の状況から想像のつかないこともあり、難しさがありました。
- ・自立していく上で就労という事も心配です。
- ・家族の協力が有り、とても恵まれているなど感じておりますので、反対に甘
えた事を言うのも正直気が引けますが、今回のアンケートには日頃思う事を
記入できたかと思えます。

資料（アンケート用紙）

平成 22 年(2010 年)1 月～2 月
宝塚市における身体障害児者の
福祉サービスに関する調査

《回答ご記入上の注意》

1. 「障害のあるお子様」について回答をご記入ください。
2. この調査用紙や返信用封筒にお名前を書いていただく必要はありません。
3. 回答は回答欄の番号に○印を、また()内には具体的にお書きください。
4. この調査用紙は、両面印刷になっています。記入漏れのないようご注意ください。
5. 答えにくい質問にはお答えいただかなくても結構です。可能な範囲内で回答していただければ幸いです。
6. 回答のご記入が済みましたら、記入漏れがないかをご確認の上、2月7日(日)までに返信用封筒(切手貼付済み)にてご投函ください。

〈問合せ先 1〉 関西学院大学 人間福祉学部社会福祉学科 杉野研究室

〈問合せ先 2〉 宝塚市社会福祉協議会 身体障害者支援センター

〈協力〉 宝塚市肢体不自由児者父母の会・宝塚市社会福祉協議会

問 5-1. お子様は、障害者自立支援法の障害程度区分認定を受けていますか（**1つだけに○印**）。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 受けている | →問 5-2 へ進んでください。 |
| 2. 受けていない | →問 6-1 へ進んでください。 |

問 5-2. (問 5-1 で障害程度認定を「1. 受けている」と答えた方のみお答えください。)
お子様の障害程度区分は、次のうちどれですか（**1つだけに○印**）。

- | |
|-------------|
| 1. 障害程度区分 1 |
| 2. 障害程度区分 2 |
| 3. 障害程度区分 3 |
| 4. 障害程度区分 4 |
| 5. 障害程度区分 5 |
| 6. 障害程度区分 6 |

問 6-1. お子様は、どのような相手に対しても、自分の意思を伝えることができますか（**1つだけに○印**）。

- | | |
|---------|------------------|
| 1. できる | →問 7-1 へ進んでください。 |
| 2. できない | →問 6-2 へ進んでください。 |

問 6-2. お子様が自分の意志を伝えることができる相手は誰ですか。

(ご自由にお書きください)

問 9-1. 医療的なケアが必要なため、福祉サービスが利用できないという経験がありますか。

1. ある	→問 9-2 へ進んでください。
2. ない	→問 10 へ進んでください。

問 9-2. (問 9-1 で「1. ある」と答えた方のみお答えください。)

利用を断られた福祉サービスはどのようなサービスですか。断られた理由とその福祉サービスをお書きください (できるだけ具体的に)。

利用を断られたサービスの種類	断られた理由
(記入例) ショートステイ	(記入例) 胃ろうをつけているから。

【日常生活の過ごし方についておたずねします。】

問 10. 現在、お子様のお住まいはどこですか。

1. 親と同居
2. その他 (具体的に ;)

問 11. お子様は、平日の昼間は主にどこで、どのようなことをして、過ごしていますか (ご自由にお書きください)。

<u>平日の昼間の過ごし方について</u>

問 18. (問 16 で「2. 以前は利用したことがある」と答えた方のみお答えください。)
ホームヘルパーは、どれくらいの時間、どのようなことを頼んでいましたか。また、
利用しなくなった理由についてお教えてください (具体的にお書きください)。

1. 週 () 時間

2. 主にホームヘルパーに頼んでいたこと

3. 利用しなくなった理由について

* 問 20 へ進んでください。

問 19. (問 16 で「3. 今まで利用したことがない」と答えた方のみお答えください。)
ホームヘルパーを、利用しない理由についてお教えてください (具体的にお書きくだ
さい)。

ホームヘルパーを利用しない理由について

* 問 20 へ進んでください。

問20. 宝塚市の福祉サービスの利用で気になる点があれば、ご自由にお書きください。

宝塚市の福祉サービスの利用で気になること

【今後の生活についておたずねします。】

問 21. あなたは、障害のある子にとっての親離れ・子離れについて、考えたことがありますか（**1つだけに○印**）。

1. 考えたことはない
2. あまり考えたことはない
3. ときどき考える
4. いつも考えている
5. 以前は考えていたが、今はあまり考えない
6. 子どもはすでにひとり暮らしをしている
7. その他()

問 22. 障害のあるお子様があなたと離れて暮らしていることを想像したことがありますか（**1つだけに○印**）。

1. ある →問 23 へ進んでください。
2. ない →問 24 へ進んでください。

問 23. (問 22 で「1. ある」と答えた方のみお答えください。)そのとき、お子様はどこで暮らすのがよいと思いますか（**該当するもの全てに○印**）。

1. 現在の自宅
2. きょうだい・親戚の家
3. 入所施設（はんしん自立の家、砂子療育園など）
4. アパート・マンションなどで、ひとり暮らし
5. グループホーム・ケアホーム
6. 子どもが決めてほしい
7. その他()

問 24. ヘルパーを24時間利用できるならば、お子様はどのくらいの間、親や家族がいなくても、ひとりで自宅で生活できると思いますか（**1つだけに○印**）。

1. ヘルパーを利用できたとしても、ひとりで生活することはできないと思う
2. ヘルパーを利用できれば、3時間程度ならひとりで生活できると思う
3. ヘルパーを利用できれば、6時間程度ならひとりで生活できると思う
4. ヘルパーを利用できれば、12時間程度ならひとりで生活できると思う
5. ヘルパーを利用できれば、1日ならひとりで生活できると思う
6. ヘルパーを利用できれば、3日間ならひとりで生活できると思う
7. ヘルパーを利用できれば、1週間ならひとりで生活できると思う
8. ヘルパーを利用できれば、1週間以上ひとりで生活できると思う

問 25. どんなサービスがあれば、お子様が自宅にてひとりで暮らせるようになると思いますか（**ご自由にお書きください**）。

問 26. コンピューターで管理した自宅で、重度障害者が一人暮らしをできるようにするための福祉工学実験にあなたは関心がありますか。

1. 関心がある
2. 関心はない
3. わからない（イメージできない）

【最後におたずねします。】

問 35. お困りのことなど、普段の生活で気になることなどをお教えてください。

***お気づきの点をご自由にお書きください。**

問 36. 最後にこのアンケートに対するご意見・ご感想等がございましたら、お書きください。

***お気づきの点をご自由にお書きください。**

以上で、終わりです。
お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

福祉サービスと子離れ・親離れ

—宝塚市肢体不自由児者父母の会アンケート調査報告書—

著者 杉野 昭博（関西学院大学 人間福祉学部社会福祉学科 教授）
新道 由記子（園田学園女子大学 人間健康学部人間看護学科 准教授）
松浦 考佑（関西学院大学大学院 人間福祉研究科 博士課程前期課程）

発行日 平成 22 年（2010 年）9 月 30 日

発行者 杉野 昭博
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1 番 155 号
関西学院大学人間福祉学部 社会福祉学科 杉野研究室
